

解説・主張 SHIZUOKA

精神障害者の退院支援

ピアサポーター養成推進

精神障害者の退院促進や地域生活への移行に同じく、精神障害を患った当事者が寄り添いながら支援を行う「ピアサポート」。事業所スタッフなどで、雇用を前提に県がピアサポーター養成研修を実施し、2018年度以降、受護生が支援の現場に入り始めた。長期入院者が退院するなど成果も出ていて、今後の活動の広がりが期待される。

島田市を拠点に精神障害

者の相談支援事業や自立生活援助事業などに取り組むNPO法人「ピアスタック」として働く6人は、それぞれ統合失調症や強迫性障害などの疾患があり、入院経験もある。原則として、ピアスタックのスタッフ2人組で専門職のスタッフとともに精神科病院を訪問、患者と関係を構築しながら退院を目指す。

彼の強みは、患者と同じ境遇をかかち合っ安心して感を与え、自身をモデルとして「病気があっても元気なことに働くことができる」と伝えられること。活動を受け入れられている県立この医療センターの精神保健福祉士、中村健也さんは「精神障害は本人の感じる社会的損失が大きく、差別や偏見に巻き込まれ、目に見えて変化が出ていく」と効果を語る。

ピアサポーター自身にも良い影響を与えている。

当事者雇用 周知拡大を

人に共通するのは「自分がない点だ。雇用も現状は部分にとどまる。県はますますピアサポーターの裾野を広く、ピアスタックが「強み」や「宝物」に変わったという意識の変化だ。つらい経験を基礎編、実践編に分けて、県内の精神科病院の長が「雇用されていること、退院できない」「社会的な復帰の解消も長年の課題だ。解を定める効果がある」と専門所や当事者団体の連携に加え、支援事例を積極的

に発信して活動の幅を広げていくことも求められている。

課題は医療現場を含めて認知度がまだ低く、県全体に役割や存在が知られてい



(島田支局・中村健也)

NPO法人「ピアスタック」のスタッフとピアサポーターの退院支援などについて